

アート体験 ぼくも わたしも 芸術家

伝えよう わたしの思いを (マルチメディアを利用して)

2003年 6月～10月

3年 26名 (竹内清美)

1. はじめに

本校は、テレビ会議システムを使って他地域の児童と交流を進めている。作家の追体験、作品鑑賞活動を通して交流を図りたいと考え、6月に愛知県美術館企画展「森の襲の行方」を観賞した。その後の所蔵品鑑賞では、シーガルの作品に児童の関心が集まり、三年生児童全員と学芸員さんとのギャラリートークが始まった。制作方法に興味を持ち、意見交換が行われた。児童から「戸谷成男のチェーンソー体験の時のように、自分たちで作ってみたい。」という希望が出た。作家の追体験は、作家が制作するときの思いや苦勞、喜びについて気づくには有意義な学習である。しかし、チェーンソー体験は大変危険が伴い、材料にも制限があったので、全員で小さい作品一点しか作らなかった。そのため、作品制作への達成感は何れなかった。そこで、一人一人がシーガルの追体験をして足形を作り、制作の喜びを味わわせたいと考えた。また、デジタルカメラを活用して、足形をコンピュータに取り込み、お気に入りの場所と組み合わせて合成の絵を作りホームページにまとめ、交流学习に発展させていきたい。

パート2 シーガルに挑戦(足がたづくり)

学習目標

- ・ 作家の制作方法を知り、色やかざりを工夫して自分なりの足形を作る。
- ・ 校庭のお気に入り場所に足形を置き、デジタルカメラで写して作品を作る。
- ・ 足形とお気に入りの場所をデジタルカメラで写し、コンピュータに取り込み、合成の絵を作る。

準備する物

石こう、包帯、ビニル袋、輪ゴム、水、バケツ、ボール、スプーン、ビニルシート、ポスターカラー、デジタルカメラ、シーガルの画集

児童の活動	留意点
1. シーガルってどんな人? シーガルの画集を見てシーガルについて知る。	・ シーガルの特徴的な作品や、制作風景を大画面の画集で見る。 ・ 制作するきっかけ、制作方法などを講師から聞く。
2. わたしたちも足形を作ってみよう 制作手順 ① 石こうを水で溶き、好きな色を混ぜる ② ビニル袋に足を入れ、輪ゴムでとめる。 ③ 足に包帯を巻く。	・ 講師から石こうの溶き方や、分量の説明を聞く。 ・ グループで協力し合って作業する。 ・ 足が熱くなって、石こうが乾き始めたら教

- ④ 石こうをつける。
- ⑤ 石こうが固まってきたら足を抜く。

3. お気に入りの場所に足形をおいて作品を作ろう

- ①花だん、観察池など校庭でお気に入りの場所を探す。
- ②グループの足形を置いてデジタルカメラで写して作品にする。

4. 合成の絵を作ろう

- ①自分の足形の写真をコンピュータに取り込み切り取る
- ②体験学習の現場でお気に入りの場所を選んでデジタルカメラで写し、コンピュータに取り込む
- ③背景に足形を貼り付けて合成の絵を制作する。

師や講師に伝える。

- ・足を抜くときに足形がくずれないように教師や講師が手伝う。
- ・作家が制作するときの思いや、苦勞、喜びについて気づく。
- ・石こうが完全に固まらないように注意する

・足形を置いて効果的にみえる場所を探す。

・足形の位置や方向などを工夫して置く。

・背景が入らないようにできるだけ足形の外枠を小さく切り取る。

・名古屋市博物館、愛知県美術館の庭、オアシスなどお気に入りの場所を選ぶ。

・自分の作品にあった背景写真を選ぶ。

・大きさや位置、数を工夫して画面構成をした作品を制作する。